

浅間山

○火山活動度レベル（平成 17 年 12 月）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成 17 年 12 月）

火山性地震及び火山性微動の回数はやや多く、噴煙活動はやや活発な状態が続いています。今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

表 1 浅間山 火山情報の発表状況（平成 17 年 12 月）

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 199 号 ～（毎週 1 回発表） 火山観測情報第 203 号	2 日 16:00 ～ 28 日 16:00	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動）。火山活動度レベルは 2。第 199 号と第 201 号には火山ガス観測結果を含む。	2

○地震および微動の発生状況

火山性地震の回数は、6 日と 7 日に 50 回を越えるなど上旬はやや多い状態が続きました。その後、中旬以降になり、やや少くなる傾向がみられています。（図 1-⑥～⑧、表 2）。火山性地震の震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に分布しており、これまでと比べて特に変化はありません（図 2）。火山性微動の回数は 31 日に 4 回と一時的にやや多い状態になりました（図 1-⑤、表 2）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上おおむね 200m（最高は 7 日の 500 m）で推移しました（図 1-②、表 2）。火映は、天候不良などの影響で観測できない日が多いこともあり、今月は一度も観測されませんでした。（図 1-④、表 2）。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

15 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 300～400 トン（前回 11 月 25 日 300～500 トン）とやや少ない状態でした。（図 1-③）。

○地殻変動の状況

G P S 連続観測（図 1-⑨）では、一部の基線で見られていた浅間山山体の膨脹を示すゆっくりとした水平距離の伸び（浅間山の深部へのマグマの注入・蓄積を示すと思われます）は、2005 年 6 月頃には停滞した状態となっています。また、気象研究所と共同で行っている光波測距観測でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

※この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

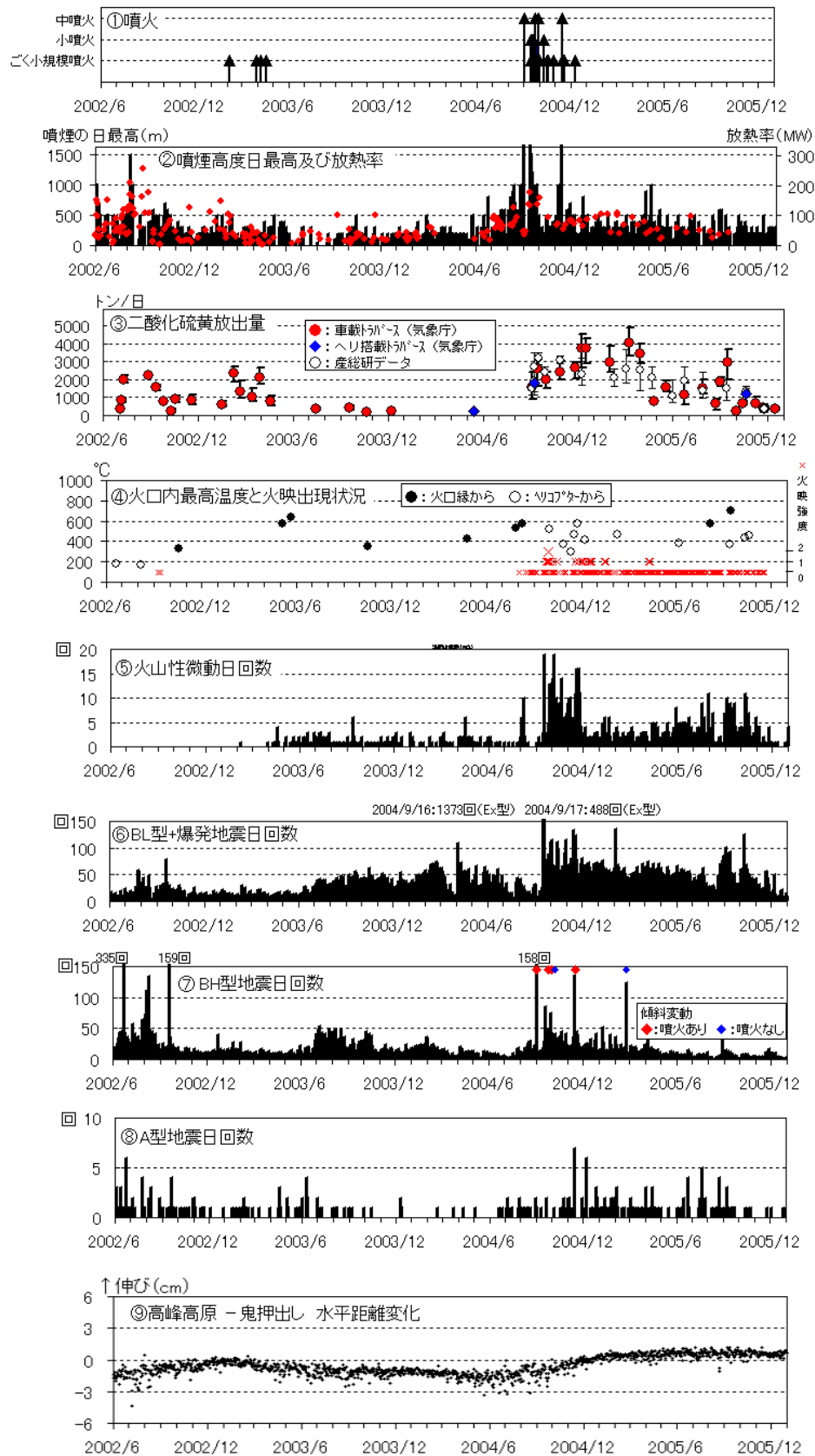


図 1※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2002 年 6 月～2005 年 12 月）

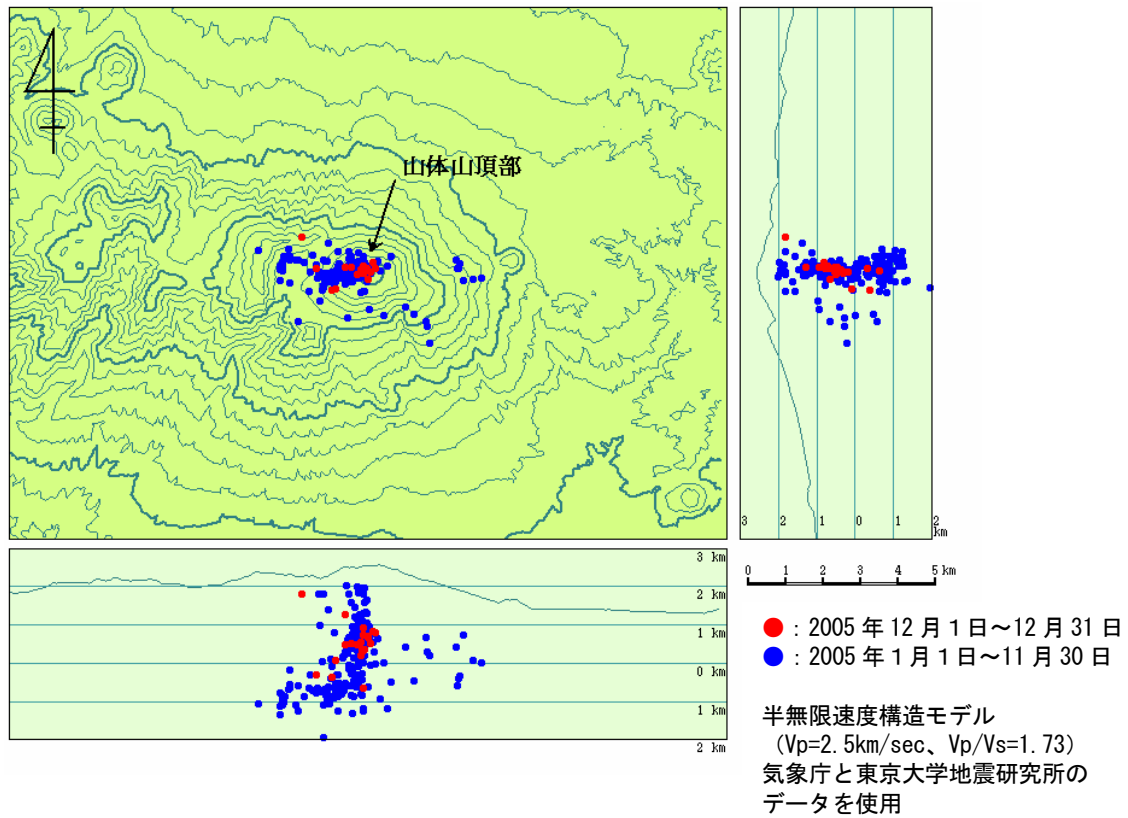


図 2※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2005 年 1 月～12 月）

震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、今期間も特に変化はなかった。

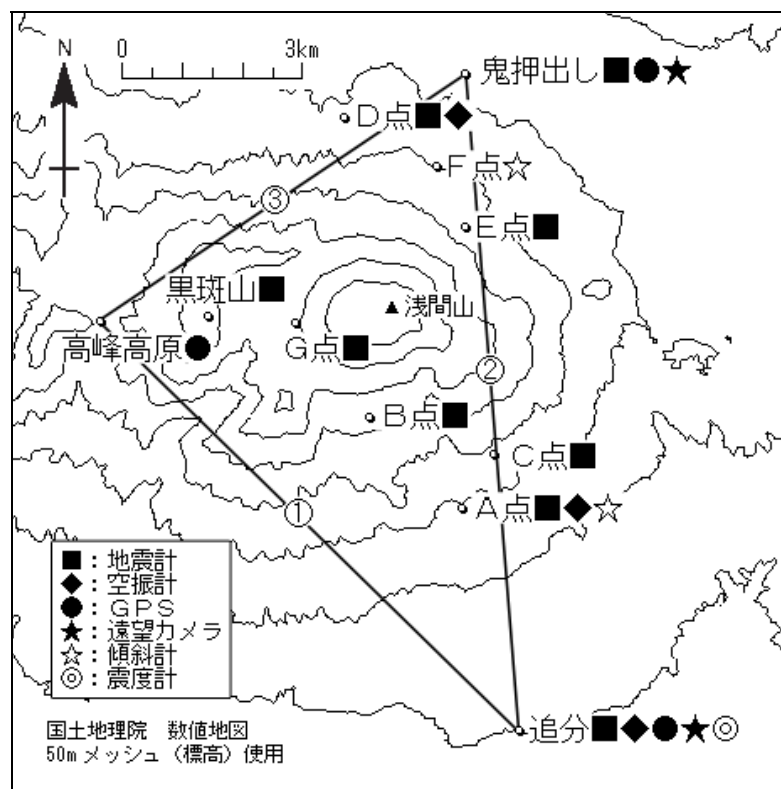


図 3 浅間山 気象庁の常時観測点配置図

表 2※ 浅間山 2005 年 12 月の火山活動状況

12月	噴火の回数		火山性地震の回数 1)						微動 回数	噴煙の状況 2)		火映 強度 3)	備考
	中規模	小規模 以下	A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震 合計		日最高 (m)	噴煙量		
1日	0	0	0	11	15	0	1	27	0	100	1	－	
2日	0	0	0	6	12	0	3	21	0	100	×	×	
3日	0	0	1	10	18	0	0	29	1	×	×	－	
4日	0	0	0	4	22	0	0	26	1	100	×	－	
5日	0	0	0	7	7	0	0	14	0	×	×	－	
6日	0	0	0	2	47	0	1	50	0	×	×	－	
7日	0	0	0	10	51	0	0	61	0	500	×	－	
8日	0	0	0	10	10	0	0	20	1	×	×	－	
9日	0	0	0	5	13	0	0	18	1	100	1	－	
10日	0	0	0	2	12	0	0	14	0	×	×	×	
11日	0	0	0	4	4	0	0	8	1	200	1	－	
12日	0	0	0	3	6	0	0	9	0	200	×	－	
13日	0	0	0	2	10	0	1	13	0	200	2	×	
14日	0	0	0	5	6	0	0	11	0	100	1	×	
15日	0	0	0	0	6	0	0	6	0	200	2	－	SO ₂ 放出量:300～400トン/日
16日	0	0	0	3	9	0	0	12	0	100	1	－	
17日	0	0	0	1	13	0	1	15	0	300	×	×	
18日	0	0	0	4	11	0	0	15	0	×	×	×	
19日	0	0	0	0	9	0	0	9	0	200	1	－	
20日	0	0	0	3	21	0	0	24	0	200	2	－	
21日	0	0	0	2	23	0	0	25	0	100	1	－	
22日	0	0	0	1	3	0	0	4	0	300	2	－	
23日	0	0	0	1	3	0	0	4	0	×	×	－	
24日	0	0	0	2	5	0	0	7	0	200	1	－	
25日	0	0	1	1	11	0	1	14	0	100	1	－	
26日	0	0	0	2	4	0	0	6	1	×	×	×	
27日	0	0	0	3	4	0	0	7	0	300	1	×	
28日	0	0	0	1	3	0	0	4	0	200	2	－	
29日	0	0	0	0	17	0	0	17	0	200	1	－	
30日	0	0	1	2	11	0	0	14	0	200	2	×	
31日	0	0	0	0	9	0	0	9	4	200	1	－	
合計	0	0	3	107	395	0	8	513	10	500	2	－	最大値

1) 火山性地震の種類は以下の通りです

A型地震：高周波地震

BH型地震：約 3Hz 以上が卓越するやや低周波地震

BL型地震：約 3Hz 以下が卓越する低周波地震

EX型地震：爆発的噴火に伴う爆発地震

2) 噴煙の高さおよび噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は 1～7 の 7 階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

3) 火映の強度は 0～3 の 4 段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度

1：肉眼でようやく認められる程度

2：肉眼で明らかに認められる程度

3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

－：火映なし

×：視程不良（終日観測できなかった場合）